

DNPは、2050年までに「脱炭素社会」「循環型社会」「自然共生社会」の実現を目指しています。（DNPグループ環境ビジョン2050）

2050年に実現するためにバックカスティング思考で考え、下記の2025年目標を設定しました。

また、2030年のGHG削減目標（SBT認定）は、2020年度に前倒しで達成が見込まれるため、2050年排出量ゼロを実現するマイルストーンとしてより厳しい目標に更新しました。新たに設定したこの目標にてSBT認定更新の申請中です。

GHG削減目標：2030年までに2015年度比25%削減（SBT） → **2030年までに2015年度比40%削減**

項目	実施すること	マイルストーン		ありたい姿
		2025年目標	2030年目標	2050年
GHG排出量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・高効率機器への更新 ・再生可能エネルギー利用の拡大 		GHG排出量を2015年度比40%削減	脱炭素社会
輸送環境負荷削減	<ul style="list-style-type: none"> ・低排出量車の導入 ・混載やモーダルシフトの拡大 	輸送燃料使用量売上高原単位を2015年度比15%削減		
環境配慮製品・サービスの売上高拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・環境貢献製品の開発促進 ・リサイクルしやすい製品の開発促進 	スーパーエコプロダクツの売上高比率を10%に拡大		循環型社会
廃棄物削減	<ul style="list-style-type: none"> ・不要物の最小化 ・リサイクルの促進 ・最終処分場利用率の最小化 	資源循環率 ^{※1} を2015年度比5ポイント改善 ゼロエミッション維持		
水使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・水の効率的利用 	水使用量売上高原単位を2015年度比35%削減		自然共生社会
VOC排出量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・脱臭装置の維持管理 	2015年度レベルを維持		
環境保全 ^{※2}	<ul style="list-style-type: none"> ・傾向管理による基準値遵守の徹底 	規制基準の70%以下を維持		

※1 資源循環率：100%リサイクルしている紙有価物を除外した不要物（廃棄物+有価物）のうちマテリアルリサイクルまたはケミカルリサイクルされた割合。

固形燃料化、セメント燃料化および熱回収等はサーマル・リカバリーとしリサイクルから除外

※2 環境保全項目：大気排出規制項目、排水規制項目、敷地境界における最大臭気・最大騒音・最大振動